

平成31年度京都府公立高等学校入学者選抜前期選抜における共通学力検査の出題について

<出題方針>

中学校学習指導要領に基づき、各教科とも中学校で学習する基礎的・基本的な内容に重点を置くとともに、知識・技能等を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等が的確に把握できる出題とする。また出題範囲は、中学校学習指導要領の趣旨に沿った、標準授業時数での学習範囲において、生徒が学習している各教科の内容を踏まえた適切なものとなるようにする。

<特徴>

基礎・基本の定着、論理的な思考力や判断力・表現力をみる

中学校で学習する基礎的・基本的な内容の定着と、基礎・基本の理解からその発展的問題への思考過程をみるとともに、生徒が身に付けた様々な知識・技能等を活用して総合的に考え、判断・解決し、表現できるかどうかをみる記述式の解答を求める問題を設けた。

<各教科の特色と傾向>

【国語】

- 1 大問一及び大問二では、文章の構成や論理の展開を踏まえて内容を理解する力をみるとともに、理解した内容を適切に表現する力をみた。また、言葉の特徴やきまりに関する事項、漢字に関する事項についての問いと、「話すこと・聞くこと」に関連する問いを設けた。

〔出典〕 「だしの神秘」伏木 亨（朝日新聞出版）

「日本人とリズム感」樋口桂子（青土社）

大問一の本文は、和食という文化について述べた文章であり、大問二の本文は、「もの音」という表現について述べた文章である。本文の内容を的確に理解することで、人間、社会、自然などについての考えを深める契機となることを期待する。

- 2 大問三では、近世の文章を題材とし、内容を読み取る力をみた。また、歴史的仮名遣いなどについて問い、古典を理解する基礎が身に付いているかどうかをみた。

〔出典〕 「折々草」（「新日本古典文学大系」岩波書店より）

江戸時代に建部綾足が著した随筆。

本文は、「真間のでこな」という人物の呼び名について述べた文章である。本文の内容を読み取ることで、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、古典の世界に親しむ態度が養われていくことを期待する。

【数学】

- 1 数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得できているかどうかをみるとともに、それらを活用して様々な事象を数理的にとらえ、見通しをもって論理的に考察する能力をみるように工夫した。また、複数の領域を関連付けた問いや異なる学年の学習内容を関連付けた問いを設け、中学校の学習内容を統合的に活用できるかどうかをみた。
- 2 さいころを投げ、出た目に対応する箱に玉を入れる問題（大問2）については、起こり得る場合を整理して確率を求める問いを設け、数学的な見方や考え方を活用する能力をみた。また、重ねて置いてあるカードに関する問題（大問6）については、具体的な事象から法則を読み取って適切に処理する問いを設け、数学的な思考力・判断力・表現力を段階的にみるように工夫した。

【英語】

- 1 全体をとおして、生徒の身近な暮らしに関わる場面についての問題を設け、英語でのコミュニケーション能力の基礎となる知識・技能を習得しているかどうかをみるとともに、それらを活用して思考・判断・表現する力が身に付いているかどうかをみた。
- 2 絵を見て会話文を完成させる記述式問題（大問1）では、言語の使用場面や働きに留意しながら基本的な語彙や文法などの知識を活用して、状況に合ったふさわしい表現ができるかどうかをみる問題とした。
- 3 長文問題では、スタイルの異なる2つの文章から出題し、語句や文、文法などに関する知識が身に付いているかどうかをみるとともに、内容を正しく読み取る力をみた。旅行の計画に関する会話を題材とした問題（大問2）では、必要な情報を整理して読み取る力をみる問いを設けた。エネルギーと自分たちの生活を題材とした問題（大問3）では、本文全体の論旨を正確に読み取れているかどうかをみる問いを設けた。
- 4 リスニング問題では、会話やアナウンスなどまとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取り、正しく理解し、内容に関する質問に対して適切に応答する力が身に付いているかどうかをみた。